おかげさま

編集・発行 おかげさまの会 足利市本城3-2055 樹覺寺あけし金館

いま、手元に「へいわってどんなこと」というタイトルの絵本があります。あなたはご覧になったことがありますか? あなたにとって、「平和」っぱてどのようなことですか? 具体的にいって、平和ってどんなこと? 例えば、互いに、隙あらば相手を殴ろうと拳を握って威嚇しあっている。まだ実際に殴り合っていない、実際に殴り合いたくないから威嚇しあっている。これって平和なのかな。



親鸞聖人は、「世の中 安穏なれ」と仰っています。穏やかで安らぎの世を 願っておられた、というよりもその実現のために、念仏に生きる生き方を歩ま れ、念仏に生きる生き方をお勧め続けたのでした。

戦後70年の今年、例年にも増して様々な行事が執り行われています。浄土 真宗本願寺派では、毎年行われている、千鳥ヶ淵墓苑で行われる全戦没者追悼 法要、大谷本廟で行われる全戦没者追悼法要、築地本願寺で行われる平和フォー ラム等とは別に、広島平和記念公園内原爆供養塔前で、7月3日に御門主様御 親修で勤められた「平和を願う法要」が行われました。

以下、御門主様のお言葉です。

戦後70年によせる平和への願い

ただ今、皆さまと共にお勤めいたしました「平和を願う法要」にあたり、第2次世界大戦で犠牲になられたすべての方々に対し、衷心より追悼の意を表します。

70年前の8月6日、たった一発の爆弾によって、一瞬にして美しい広島の町が破壊され、多くのかけがえのない命が失われました。また、原子爆弾のもたらした惨禍は、放射能の影響として、また痛ましい記憶として、今も多くの方々を苦しめ続けています。このことを思うとき、あらためて人間の愚かさ、戦争の悲惨さ、原子爆弾の非道さを感じずにはいられません。

私は、皆さまと共に、戦後70年を迎える広島の地で、平和への願いを新たに することに深い意義を感じています。 第2次世界大戦が終わって70年が経とうとしています。しかし人類が経験したこともなかった世界規模での争いが起こったあと、70年という歳月が、争いがもたらした深い悲しみや痛みを和らげることができたでしょうか。そして、私たちはそこから平和への願いと、学びをどれだけ深めることができたでしょうか。

戦争の当時を生きられた方々が少なくなってゆくなかで、戦争がもたらした痛みの記憶は遠いものとなり、風化し忘れられつつあります。また先に大戦において、本願寺教団が戦争遂行に協力したことも、決して忘れてはなりません。こうした記憶の風化に対し、平和を語り継ぐことが、戦後70年の今を生きる私たちに課せられた責務です。よりよい未来を創造するためには、仏智に教え導かれ、争いの現実に向きあうことが基本でありましょう。

そもそも、あらゆる争いの根本には、自己を正当とし、反対するものを不当とする人間の自己中心的な在り方が根深くあります。 宗祖親鸞聖人は、「煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたわごと、まことあることなし」と、人間世界の愚かさを鋭く指摘されています。私たちが互いに正義を振りかざし、主張しようとも、それはいずれも煩悩に基づいた思いであり、阿弥陀如来の真実のはたらきの前では打ち崩されてゆくよりほかはないという事でありましょう。 それはまた、 縁によって、 どのような非道な行いもしかねないという、私たち人間の愚かさに対する警告でもあります。

いかなる争いにおいても悲しみの涙をともなうことを、私たちは決して忘れてはなりません。受けがたい人の身を受け、同じ世界に生まれ、同じ時間を生きている私たちが、お互いを認めることができず、どうしてこの上、傷つけあわねばならないのでしょうか。一つひとつの命に等しくかけられている如来の願いがあることに気付かされるとき、その願いのもとに、互いが互いを大切にし、敬いあえる社会が生まれてくるのではないでしょうか。少なくともお念仏をいただく私たちは、地上世界のあらゆる人びとが安穏のうちに生きることができる社会の実現のために、最大限の旁力を惜しんではなりません。

戦後70年という歳月を、戦争の悲しみや痛みを忘れるためのものにしてはなりません。そして戦後70年というこの年が、異なる価値観を互いに認め合い、 共存できる社会の実現のためにあることを、世界中の人びとが再認識する機会と なるよう、願ってやみません。

2015 (平成27) 年6月3日 浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

いかが読まれましたか。人類の歴史が始まって以来、争いのない時代はなかったのではないだろうか。その原因を「自己を正当とし、反対するものを不当とする人間の自己中心的な在り方」と看破され、争いの結果もたらされるものとして、敵味方双方に「悲しみの涙」と見抜いておられます。では、争いがなければ、平和なのかといいますと、まだ違います。平和な社会とは、「異なる価値観を互いに認め合い、共存できる社会」であるといっておられます。お互い、できることから、これからを生きる子供たちの社会を、平和な社会にする努力をしていきましょう。

あけし酔話

近頃の大人は、物忘れが激しくなったのか、物覚えが下手になったのか。相手を無視して自分の主張だけ

を繰り返す癖がついたのか。

いずれにしても、「シルバー民主主義」などと揶揄される時代に入ってきたのは間違いない。たとえ本人が何のための選挙であるか認識していなくても1票、生まれたばかりの赤ちゃんは0票。赤ちゃんが大人になった時に願うよりよい社会ためには、票がないから知らんぷり。エッ、エエッ!

あなたは、何を伝えますか?

1992年6月11日、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた、国連の地球環境サミット。

カナダ人の12歳の少女が、いならぶ世界各国のリーダーたちを前に、 わずか6分間のスピーチをした。

居並ぶ、自分の都合、自国の利益のために、自然環境を壊し続けている 大人に向かって言った。易しく分かりやすい言葉で。

If you don't know how to fix it, please stop breaking it!

どうやって直すのか わからないものを、

こわしつづけるのは もうやめてください。

あなたが世界を変える日 (学陽書房) より

聞き間違いようのない言葉でしょ。

少し言い換えてみましょう。

今、私たちの生活は、必ずゴミが出ます。少しでも減らすように、有料ゴミ袋を使ったりします。ゴミを焼却すると二酸化炭素を発生します。地球温暖化の原因物質です。少しでもゴミとして出すものを減らして、僅かであっても二酸化炭素の排出を減らしたいですね。

環境にやさしい自然エネルギー、太陽光発電、しかし、設置してあるところは、どこまでいっても、砂漠と同じ荒地です。荒地が増え続けるのは困りますね。バランスよくしないと駄目ですね。

いずれにしても、何らかの悪影響を残してゆかなければ、人間は生活できないのです。それくらい、自然環境にとっての鬼っ子。自分の利便性のため、有害ごみの垂れ流し。将来の子供に置き土産。これは問題でしょ。よくよく吟味していかないと、将来の人たちから、あの時代の自分勝手で、我々が困っているんだ、などと言われたくはないですね。核のゴミも、置き土産としては最悪ですね。



あけじ あれこれ

ムラサキカタバミ

前回、カタバミの 紹介をさせていただ きましたが、今回 きまた別のカ ただきまかせていても どこにでも どこに グッカ かわいピンク



の花を咲かせるものがあります。これも種類が沢山あるんですね。なにしろ 庭の中で生えていては困る所に出てきたものは、何度も生えてきては抜くの 競争です。



ムラサキカタバミ カタバミ科 多年草

日本だけでなく、世界中に分布している広域植物で、 種類が多く、前回の種類は宿根性種で、日本のものは ほとんどがこちらの種類に属する。ムラサキカタバミ は地下に球根を作る球根性種で、温かい地域に多く、 花の美しいものが多い。いまでこそ手に負えない迷惑

物だが、その昔、オキザリス・ローズと呼ばれ、南米大陸から観賞用に輸入 された。花が咲いても、結実することはなく、鱗茎という根のかたまりが分 裂して増える。これを細切れにすると、5倍10倍となって新芽を出す。なる

ほど、それでいっぱい生えてくる訳だ。そっくりなものにイモカタバミがあり、花の中心を見て、白く抜けている(葯が白色)のがムラサキカタバミ、濃いピンクになる(葯が黄色)ものが、イモカタバミ。イモカタバミを引き抜くと、ぷっくりと太ったサトイモみたいな根っこが出てくる。なにしろ生命力豊かなかわいい花をつける植物だ。

